

5 観光奈良の魅力向上・発信

(31) 県内イベントの充実

これまでは

新型コロナウイルスの影響により、県内のイベントは中止・縮小の対応をとってきました。

【中止になった主なイベント】

- ムジークフェストなら
- 平城京天平祭 春
- 馬見チューリップフェア
- 馬見花菖蒲まつり



ムジークフェストなら2019

【開催された主なイベント】

- なら燈花会
 - ・無観客で行いネットで映像配信
 - ・「#おうちで燈花会」企画を開催
- 馬見ひまわりウィーク
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じたうえで開催
- 天平祭 夏「天平たなばた祭り」
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じたうえで開催



なら燈花会



馬見ひまわりウィーク



天平祭 夏

もっと良くするために

安心してゆっくり楽しんで頂けるように、3密を避けるなど、「WITHコロナ」でイベントを展開し、奈良を元気にしていきます。

- ・四季を通じて多くの人々に訪れて頂けるよう、奈良の奥深い魅力をブランディング
- ・新たなコンテンツで多くの人に臨場感を持って奈良の魅力を楽しめるイベントの導入

【奈良の魅力を楽しんで頂けるイベント】

- 平城宮跡にぎわいイベント
 - ・天平祭り春・夏・秋



天平祭



大立山まつり

- 冬季誘客イベント
 - ・大立山まつり

- 奈良公園にぎわいイベント
 - ・ぐれーとさまあーふえすた☆ならまち遊歩
 - ・なら燈花会 ・若草山焼き、
 - ・しあわせ回廊なら瑠璃絵



ぐれーとさまあーふえすた☆ならまち遊歩



しあわせ回廊なら瑠璃絵

- 文化・芸術イベント
 - ・ムジークフェストなら
 - ・大芸術祭・障害者大芸術祭



馬見チューリップフェア



ムジークフェストなら2019

- やまと花ごよみイベント
 - ・馬見チューリップフェア ・馬見花菖蒲まつり
 - ・馬見ひまわりウィーク ・馬見フラワーフェスタ
 - ・馬見クリスマスウィーク

令和2年度予算(百万円)

当初予算	補正予算
533	—

(32) 海外プロモーション・東京プロモーションの展開

これまでは

対外的発信力が不足していたとの認識のもと、奈良の情報発信に努力をしてきています。

【海外プロモーション】

- フランス パリのギメ東洋美術館での奈良の仏像展示・ジャポニスム2018の積極参加(平成30年度)
- イギリス 大英博物館での仏像展示・観光プロモーションの実施(令和元年度)

【東京プロモーション】

- 鉄道事業者と連携した奈良県観光キャンペーン事業を展開(平成26年度～)
- 東京国立博物館で島根県との連携による特別展「**出雲と大和**」を開催(令和2年1月～2月)



出雲と大和展
(奈良まほろば館でのPR)

新型コロナの影響により首都圏や海外からの観光客は減少しているものの、状況改善後の観光需要喚起を図るため、本県の魅力を継続して発信しています。



首都圏鉄道駅における
観光キャンペーン(薬師寺)



旅行誌等を活用した情報発信

もっと良くするために

新型コロナの影響を踏まえ、県内や周辺エリアから段階的に観光誘客を展開します。また、首都圏・海外に対しては奈良の魅力を継続的に発信します。

- 3密回避など新たな生活様式を踏まえた**県内周遊旅行商品の企画造成**
- 鉄道事業者等と連携し、**奈良の歴史イベント**(藤原不比等没後1300年等)の魅力を発信するプロモーションを展開
- 奥大和の魅力**を旅行商品に造成し、駅構内等で発信
- 安心安全な観光地のイメージ定着を図る**動画プロモーション等**
- 外国人旅行者の「旅行情報源」である現地メディア・エージェント等と連携したセールス活動強化、SNSによる「**知られざる奈良の魅力**」発信

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
300	100

(33)「奈良まほろば館」新拠点への移転

これまででは

東京において「奈良まほろば館」と「ときのもり」の2つの拠点で、奈良の魅力を発信してきました。

【「奈良まほろば館」】

- 東京日本橋三越前に開設(平成21年度)
- 奈良県発信拠点として、奈良の奥深い魅力を発信

【「ときのもり」】

- 東京白金台に開設(平成27年度)
- ミシュランガイド東京において1つ星を獲得し、奈良の「食」の魅力を発信



「奈良まほろば館」



「ときのもり」



成果

○各施設では、オープン以来、首都圏の数多くの方々に奈良の魅力を発信しました。

- ・奈良まほろば館(平成21年4月～R2年8月)
2,633,365人の来場者 ※入館者、イベント参加者の合計
- ・ときのもり(平成28年1月～令和2年3月)
56,380人の来店者 ※物販・レストラン等の利用者の合計

もっと良くするために

「奈良まほろば館」、「ときのもり」の機能を統合し、奈良県の魅力発信拠点としての機能をより一層強化するため、「奈良まほろば館」新拠点を整備します。

- 東京都港区新橋一丁目に、「奈良まほろば館」新拠点を整備し、ショップでの「奈良もの」の販売、レストランでの「奈良のうまいもの」の提供を充実させ、奈良県の魅力発信と誘客促進を一層強化します。

【「奈良まほろば館」新拠点の概要】

新拠点概要		
所在地	東京都港区新橋一丁目 JR新橋駅から徒歩3分 中央通り沿いの角地	
店舗面積	1階	74.44坪(246.07㎡)
	2階	170.91坪(565.00㎡)
	合計	245.35坪(811.07㎡)
築年月	新築(2021年3月完成予定)	

【イメージパース】



【スケジュール】

- ・令和2年度
設計、内装工事
- ・令和3年度
新拠点オープン

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
213	—

(34) 食の振興

これまでは

奈良にうまいものなしと揶揄されてきましたが、奈良にうまいものありの評判をとるようになってきました。

○県内レストラン等との連携による情報発信

・「眺望のいいレストラン」（6店舗）や奈良のうまいもの会等との連携により、食の魅力を発信

※ ミシュランガイドブック奈良2017特別版掲載店舗数

三つ星★★★：1軒(1) ビブグルマン：26軒(15)

二つ星★★：4軒(3) 星なし(調査員オススメ)：97軒(0)

一つ星★：17軒(12) *()内は前年の数

○NAFICの開校

・フードクリエイティブ学科開設以来、33名が卒業

<主な就職先>

カンテサンス、ロオジェ等、有名レストラン・ホテル
県内でカフェやオーベルジュ等開業

成果

○奈良県産農畜水産物ブランド認証制度「奈良県プレミアムセレクト」に(梨:二十世紀)を追加しました。



○食と農の振興を行う県庁組織を設置しました。
(「豊かな食と農の振興課」)

もっと良くするために

「奈良にうまいものあり」の評判を定着させる努力を続けます。

○奈良県コンベンションセンターで食のイベント開催等、フードフェスティバル継続開催、NAFICとBCC※(バスクカリナリーセンター)との連携推進で食文化の振興を行います。

※BCC・・・スペイン・バスク地方にある世界的な4年制の料理専門大学校

○県内オーベルジュ施設のネットワーク化の推進により、滞在型周遊観光の展開を図ります。

○UNWTOガストロノミーツーリズム世界フォーラムの奈良誘致を行います。

○県産食材を活用した加工食品等の商品開発及び販売促進を行います。

○奈良初のワイナリー設置を支援します。

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
61	—

(35) 奈良県の観光戦略20年ビジョンの策定と実行

これまでは

奈良県としては観光振興を図る戦略を持ち合わせていませんでしたが、リニア中央新幹線が奈良市附近を通る20年後を見据え、新たにビジョンの策定を検討してきました。

観光客獲得は地域間の競争です。あらゆる観光魅力が整った観光地づくりが必要です。

宿泊施設の質と量
(Accommodation)

滞在環境の快適性
(Amenity)

食の魅力
(Appetite)

便利な交通体系
(Access)

抜きんできた魅力
(Attraction)

楽しませる
(Amusement)

魅力に実力があれば宣伝はあまり必要ありません。来訪者自身が良い評判を拡げてくれます。
(身替リピーターの創出)

「泊まる奈良」(滞在型観光の実現)、「巡る奈良」(移動・周遊環境の充実)、「活かす奈良」(豊かな観光資源の活用)のためあらゆる努力をしてきました。

もっと良くするために

奈良県の観光戦略20年ビジョン第I期計画を策定し実行します。

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的にインバウンドをはじめ観光全体を取り巻く環境が急変。
- これを受けて、国内及びインバウンドの観光需要やその他の変化、状況を踏まえた内容の計画を策定・実行。

令和2年度予算(百万円)

当初予算

補正予算

20

—

Ⅲ 愉しむ「都」をつくる

～県民が安心して快適に暮らし続けられる奈良をつくる～

6 「安全安心な地域」づくり

- (36) 大規模広域防災拠点の整備
- (37) 消防学校教育の充実、県内消防組織への支援
- (38) 大和川直轄遊水地と流域内水遊水地の整備
- (39) 土砂災害対策の推進
- (40) 奈良県緊急防災大綱の推進
- (41) 災害時の避難所整備と運営の改善

7 「きれいな奈良県」づくり

- (42) なら四季彩の庭づくりの推進
- (43) 大和川のきれい化
- (44) プラスチックごみの削減
- (45) 馬見丘陵公園の整備
- (46) きれいな川辺づくり、遊歩環境の改善
- (47) 道路の無電柱化

8 暮らしやすいまちづくり

- (48) 土地利用とまちづくり
- (49) 奈良県のすまい方改善
- (50) 移動目的に応じた便利向上のための交通サービスの確保
- (51) 自転車の安全な利用促進、駐輪場の整備
- (52) 自治会等との連携協力強化

9 地域で子どもを健やかに育てる

- (53) 保育の量の確保と質の向上
- (54) 子育て不安の解消
- (55) 児童虐待防止
- (56) 子どもの居場所づくり、里親制度の強化
- (57) 子どもの通学通園路の安全確保

10 女性活躍の推進

- (58) 女性の働き方改革と仕事場づくり
- (59) 結婚支援・出生率上昇
- (60) 女性の幸せ応援プロジェクト
- (61) ひとり親家庭支援

11 エネルギー政策

- (62) 節電・緊急時のエネルギー供給
- (63) 県内水素ステーション設置・バイオマス利活用の体制強化

6「安全安心な地域」づくり

(36) 大規模広域防災拠点の整備

これまでは

- 東日本大震災の時、山形空港(滑走路2,000m)が大活躍したことから、南海トラフ巨大地震等の災害に備え、五條市に大規模広域防災拠点(2,000m級滑走路付)を設置する検討を進めています。
- 早期の整備効果発現のため、**段階的な整備**を行います。

- 防災拠点の整地のため、リニア中央新幹線などの排出土砂を利用
- 消防学校を併設
- 防災拠点を通り、京奈和自動車道と国道168号を結ぶ高規格の道路整備を検討

1期整備

2期整備

広域防災拠点

大規模広域防災拠点
(600m滑走路併設)

3期整備

大規模広域防災拠点
(2000m級滑走路併設)

成果

- 地元説明会の開催(9/23)など、地元調整を進めています。

もっと良くするために

大規模広域防災拠点の早期整備に向けた取組を進めます。

- 地元住民の理解を得ながら整備を進めるため、地元説明会等を開催したうえで、現地調査・造成設計を実施

京奈和自動車道五條西ICから防災拠点を經由して**国道168号にアクセスする道路**の予備設計を実施

陸上自衛隊駐屯地の誘致を継続

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
219	—

(37) 消防学校教育の充実、県内消防組織への支援

これまでは

全国に先駆けた全県的消防広域化を実現し、全国的にも注目されました。

広域化によるコスト削減効果が約39億円ありましたが、組織・人事ガバナンスの強化、令和3年度の財務統合に向けた市町村交付金の負担方法の整備等、財務体制の整備が必要。

広域消防組合

消防署数 18消防署、
19分署・出張所
職員数 1,283名
保有車両台数 276台
構成市町村 37市町村
管轄人口 約90万人
(H31.4.1現在)

奈良市消防局

消防署数 5消防署、6分署
職員数 374名
保有車両台数 90台
構成市町村 1市
管轄人口 約36万人
(H31.4.1現在)

生駒市消防局

消防署数 1消防署、2分署
職員数 144名
保有車両台数 32台
構成市町村 1市
管轄人口 約12万人
(H31.4.1現在)



もっと良くするために

消防学校教育を充実し、高度で専門的な災害対応能力と知識を備えた消防職員・団員を育成します。

- ・県内消防本部派遣教官の人件費負担
- ・訓練使用資機材の整備
- ・消防学校の改修

広域消防組合や市町村が広域的に実施する消防活動のための消防救急無線施設及び**消防指令センターの一元化整備**を支援

広域消防組合のガバナンスの強化に尽力します。



令和2年度予算(百万円)

当初予算

補正予算

213

—

(38) 大和川直轄遊水地と流域内水遊水地の整備

これまでは

各地で洪水被害が頻繁に発生しており、奈良県も洪水対策が必要です。

○国は大和川の洪水を一時的に貯留する100万m³の遊水地を整備します。(用地の協力が必要です。)



○大和川流域における総合治水の推進に関する 条例を制定しました。

○「奈良県平成緊急内水対策事業」を推進します。

成果

○内水対策第1号として、令和元年10月に着手した田原本町(阪手南)では、令和3年春の完成に向け、工事が進んでいます。



位置図



工事中の地下貯留施設(田原本町)

もっと良くするために

大和川の洪水対策を進めます。**100年に1度**の大
雨(最近頻繁に起こっています)にも耐えられること
を目標にグレードアップ対策に取り組みます。

○大和川流域の**直轄遊水地を整備**し(窪田地区、保田地区)、
大和川、佐保川の改修にも取り組んでいます。(藤井地区、
長安寺地区)



○**内水**による床上・床下浸水被害解消に取り組む市町に
助成します。(田原本町、広陵町、河合町、王寺町、御所市)
・事業主体は市町。国費を除いた分を県と市町で折半。

(参考)10年に一度の大雨に対する事業費 国費41億円、
県・市町それぞれ36億円

○**河道堀削、堤防補強を
実施**します。

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
4,453	—

(39) 土砂災害対策の推進

これまでは

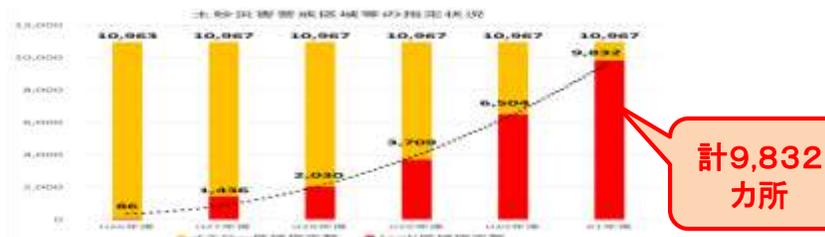
「奈良県土砂災害対策基本方針」に基づく土砂災害対策抑止力の強化を図ってきました。

- ・崩落やその兆候が見られる箇所の対策強化
- ・24時間利用の要配慮者の利用施設及び代替性のない避難所の対策強化

成果

○土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域(レッド区域)の指定を完了しました。

レッド区域の指定状況



○「奈良県土砂災害対策施設整備計画」を策定(令和元年10月策定)し、対策を進めています。

「選択と集中」により、ソフト対策と一体となったハード対策を推進します。

- ・レッド区域内における24時間利用の要配慮者利用施設や代替性のない避難所の保全
- ・アンカールート of 強靱化
- ・現行基準に適合しない老朽化堰堤の保全 など

もっと良くするために

ハード対策として砂防施設を整備し、国の直轄砂防事業に負担金を支出します。

- ・文珠川、柳田川、鍛冶屋谷他に砂防設備を設置
- ・坪内地区、平沼田地区、折立地区他に地すべり防止施設を設置
- ・稲渚地区、殿野地区、上野地地区他に急傾斜地崩壊防止施設を設置
- ・紀伊山系における(長殿、栗平、神納川他)国の大規模土砂災害対策に県負担金を支出

防災・減災のためのソフト対策を行います。

- ・土砂災害特別警戒区域等を指定
- ・土砂災害・防災情報システムを改修
- ・土砂災害防災訓練を実施



砂防設備の設置



防災訓練の実施

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
6,805	—

(40) 奈良県緊急防災大綱の推進

これまでは

「奈良県緊急防災大綱」(平成31年4月策定)に沿って、「災害対応力が最も進んだ奈良県」を目指しています。

成果

○「奈良県地域防災計画」を改定しました。

○避難行動、避難生活

- ・住民の正しい避難行動の周知
→「自らの命は自らが守る」住民主体の避難行動の実現
→地域の災害リスクの周知を徹底
- ・被災者の健康維持ができる環境づくり
→誰もが安心して健康に過ごせる避難所環境を維持

○防災拠点

- ・大規模災害時に災害対応の中心となる拠点の確保
→大規模広域防災拠点の整備を推進

○ハード対策

- ・「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を活用した計画的・重点的な防災対策の推進

もっと良くするために

ハード面の取組として、公共事業により河川の改修、平成緊急内水対策事業、直轄河川事業、砂防施設の整備、ため池の管理と整備を行います。



農業用ため池の整備



奈良県防災総合訓練の様子

ソフト面の取組として、河川情報基盤の整備、土砂災害への防災・減災、防災行政通信ネットワークの運用、建築物の耐震化の促進、地域防災力向上のための訓練・研修を行います。

- ・河川情報をリアルタイムに把握し、市町村や住民に提供する河川情報基盤を整備
- ・災害情報を迅速かつ円滑に関係者が情報共有するシステムを運営

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
15,629	—

(41) 災害時の避難所整備と運営の改善

これまでは

本県では、市町村に対して独自の避難運営マニュアル策定を働きかけ、被災者の健康維持ができる避難所環境づくりを推進してきました。

- 避難所での良好な生活環境等の確保、避難所の安定的な運営維持のため、設備の充実や物資・資機材の備蓄を行う(県と民間事業者31社と協定締結)。
- 避難所運営に関して、避難所の現場で活動された**女性の意見を取り入れ**、県において平成31年3月に「女性視点の防災ハンドブック」を作成
- 県の災害派遣福祉チーム「奈良DWAT」が令和元年11月に発足
- 市町村の避難所運営マニュアルは、令和2年4月時点で、県内27市町村で策定済

成果

○「新型コロナウイルス感染症に備えた避難所運営に係るガイドライン」を策定しました。

もっと良くするために

避難所における**生活環境の整備**

- 防災備蓄倉庫、簡易トイレの整備



備蓄用コンテナ



簡易トイレ

- 県立学校避難所のWi-Fi環境整備
- 県立学校避難所の洋式トイレの整備
- 避難所における感染予防のため必要となるマスク、消毒液等の備蓄

奈良県災害福祉支援**ネットワークの構築**と災害時要配慮者支援事業

- ・DWAT(災害派遣福祉チーム)への研修・訓練の実施、新規チーム員の募集
- ・市町村が行う避難行動要支援者に対する個別計画作成等への支援を実施

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
124	50

7「きれいな奈良県」づくり

(42) なら四季彩の庭づくりの推進

これまでは

理念

～奈良県を「一つの庭」と見立てた、四季折々の彩りを愉しむ庭づくり～

作庭方針

- 調和のとれた「一つの庭づくり」
 - …小庭(エリア)を整えつつ、全体調和に配慮
- 地域の景観資産を生かした庭づくり
 - …水辺、田園、森林・山岳、歴史文化遺産等
- 四季折々の彩りの庭づくり
 - …四季を感じさせる植物種の選択等
- 人が楽しむ庭づくり
 - …見る、くつろぐ、歩く、感じる、遊ぶ、体を動かす等
- 庭づくりを続けるために
 - …様々な主体による連携・協働

小庭(エリア)整備計画

- 県内の主要な名所やその周辺等で「小庭(エリア)」を選定(現在60箇所)
- 全小庭(エリア)で「整備方針図」を作成
- 具体化が進むと作庭処方図を作成(現在22箇所)

成果

- 条例化等を検討するため、有識者会議を設置しました(R1～)。
- 本年6月に新たに高天交差点～鴻ノ池運動公園周辺エリアで整備に着手し、更に唐古・鍵遺跡史跡公園周辺エリアで着手予定です。
- 団体等が花苗の育て方などを相談できる窓口を設置しました。

もっと良くするために

「(仮称)なら四季彩の庭づくり条例」を令和2年に制定し、四季を通じて彩り豊かな植栽景観を向上させる植栽計画を推進します。

- 条例化及び植栽計画の推進のため、有識者会議を開催
- 場所類型(森林・山岳、里山・田園、水辺、まち、人が集う場所等)毎にモデル事業を検討(デザイン検討、アクションプラン作成、実施体制構築等)
- 市町村が行う植栽・里山整備、地元自治会が行う植栽・除草・清掃活動を支援
- シンボルマークプレート設置、ジャーナル発行

・佛隆寺(室生エリア)のBefore & After



(H26.9)



(R1.10)

令和2年度予算(百万円)

当初予算

補正予算

797

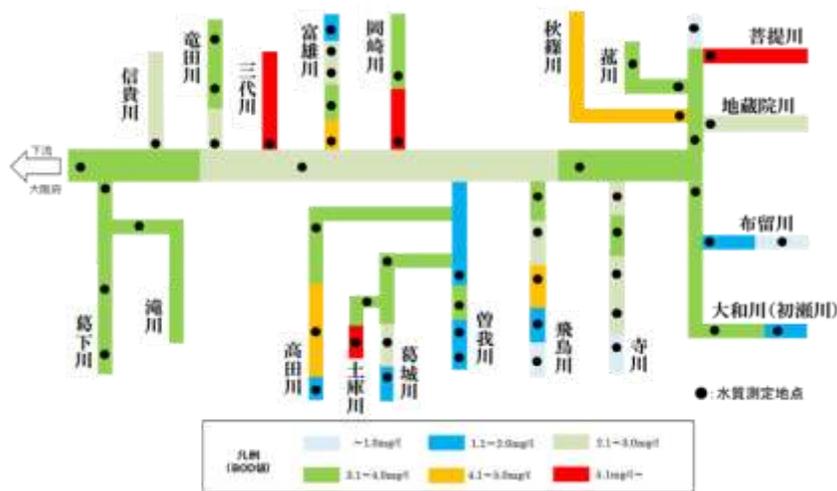
—

(43) 大和川のきれい化

これまででは

市町村と連携し、地域住民等の主体的な参加・協力を得ながら、大和川の水質改善、きれいな水辺空間づくりを進めています。

○大和川の水質は、下水道の整備等により改善傾向(BOD値①94.7mg/L→②2.4mg/L)にあるものの、他府県の河川に比べて低位にあります。また、河川にゴミが散乱し、水辺景観を損なっているところもあります。



大和川水質マップ(令和元年度)

もっと良くするために

地域の人々と協働して、奈良県の中心部を流れる母なる川「大和川」できれいに暮らす奈良県スタイルを推進します。

○「きれいに暮らす奈良県スタイル推進協議会」の運営、「きれいに暮らす奈良県スタイルジャーナル」の発行(年4回)を通じて「きれいに暮らす」を実践します

○市町村境界で水質測定を実施し測定結果をマップにして公表

○合併処理浄化槽設置補助を実施する市町村に対し助成

○県管理河川において、地元自治会等が行う花の植栽活動、除草、清掃等の活動を支援

○河川敷地の不法占用、不法投棄等の排除・撤去を行い、原状回復を図るとともに未然防止及び再発防止のための諸対策を実施



きれいに暮らす
奈良県スタイルジャーナル

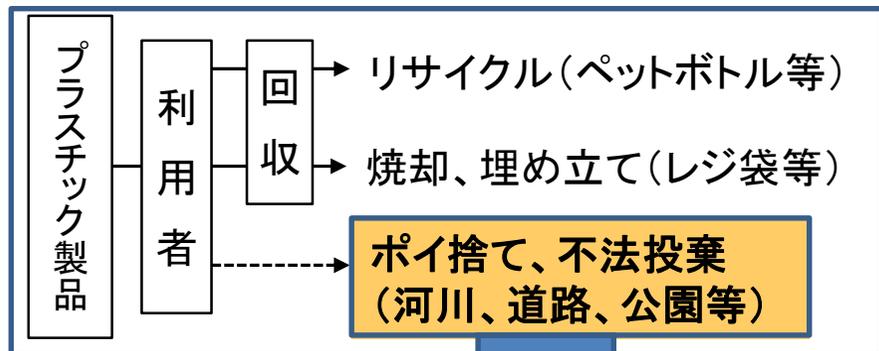
令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
92	—

(44) プラスチックごみの削減

これまでは

県内の河川から海にプラスチックごみを流さない取組を強化しています。

○プラスチック製品の回収、廃棄等経路



大和川流域



奈良公園の鹿

○道路、公園等へのポイ捨てによる景観の悪化

○大和川流域の「ごみの花」

○奈良公園内のプラスチックごみポイ捨てによる鹿の誤食

成果

○大和川流域のプラスチックごみ調査を実施しました。

もっと良くするために

プラスチックごみの実態の周知・啓発、事業者への指導・広報の強化を新たに進めます。

これまで取り組んできた**廃棄物の不法投棄、不適正処理の撲滅、排出抑制の促進、循環的利用の促進**を引き続き実施します。

- 「きれいに暮らす奈良県スタイル」を推進し、循環型社会の実現を目指す
- 大和川一斉清掃、吉野川マナーアップキャンペーンの実施継続
- 奈良のシカ保護の啓発活動の実施



吉野川マナーアップキャンペーンの様子



奈良のシカ

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
77	—

(45) 馬見丘陵公園の整備

これまでは

馬見丘陵公園(広陵町、河合町)は、かつて、全国都市緑化ならフェアの開催がありました。その開催をきっかけに、馬見丘陵公園を立派な公園にするべく、季節ごとの花のイベントをはじめ、質の高い花の公園を目指して力を注いできました。

馬見フラワーフェスタ(10月)
53,400人(R1)



馬見クリスマスウィーク(12月)
37,700人(R1)



成果

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で開催

馬見ひまわりウィーク
(7/23~8/2)
R2: 52,200人(11日間)
(前年度比12,600人増)
R1: 39,600人(9日間)



新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止しましたが、多くの来園者にお花をお楽しみいただきました。

馬見チューリップフェア (4月) 馬見花菖蒲まつり (6月)



もっと良くするために

園内の移動支援のための電動カートを導入し、土日祝(イベント期間及びGWは平日含む)に運行しています。



池部駅から北エリアまでの区間に「花街道」をつくります

池部駅



北エリア

：整備対象エリア

やまと花ごよみイベントを開催し、楽しめる公園といたします。

(4月)馬見チューリップフェア (6月)馬見花菖蒲まつり
(7月~8月)馬見ひまわりウィーク (10月)馬見フラワーフェスタ
(12月)馬見クリスマスウィーク

公園の魅力向上のための植栽等をより充実させます。

- ・チューリップの株数(R1:41万株→R2:50万株)
- ・県民協働花壇の設置、公園ボランティアの育成、多目的広場整備

暑さ対策、寒さ対策の検討、イベント時のアクセス向上の検討を続けます。

令和2年度予算(百万円)

当初予算	補正予算
196	—

196

—

(46) きれいな川辺づくり、遊歩環境の改善

これまでは

水辺は、開放的な空間であるとともに、豊かな景観を構成する要素となっていることから、景観の維持・向上とともに、水辺に親しめる親水空間の整備が求められています。

- 雑草や雑木が生い茂っているなど、景観的な魅力が乏しい箇所があり、水辺に近づきにくい状況になっている。
- 水辺は、身近な開放的空間であり、安全・快適で、潤いのある豊かな景観の維持・向上とともに、水辺に親しめる親水空間の形成が必要。

成果

○親水空間の整備を進めています。(佐保川・奈良市)



もっと良くするために

水辺に親しめる親水空間の整備をさらに進めます。

○河川沿いの観光施設や親水公園を周遊するため、堤防を遊歩道として整備(竜田川)

○奈良県植栽計画に基づき、親水施設や河川沿いに花壇等を整備(富雄川、佐保川、佐味田川、吉野川)

○地元自治会等が行う花の植栽活動、除草、清掃等の活動を支援

○護岸等修繕、除草、堆積土砂撤去

○佐保川周辺のぎわい創出



地元自治会が行う花の植栽(秋篠川・奈良市)

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
1,912	—

(47) 道路の無電柱化

これまでは

無電柱化の推進をしてきましたが、奈良県の無電柱化率は全国的に決して高くはありません。

○ 県では、これまでに県管理道路の約14 km(道路延長)の無電柱化を実施してきました。【平成30年度末時点】
これは、県管理道路のうち約0.7%に留まっている状況です。

今後の無電柱化の基本的な方針、目標、施策等を定めた「奈良県無電柱化推進計画」(計画期間:5箇年)を令和元年10月に策定しました。

成果

○ 橿原神宮東口停車場飛鳥線:電線共同溝工事完了

もっと良くするために

『奈良県無電柱化推進計画』に基づき、**無電柱化を強力に進めます。**

無電柱化計画における無電柱化重点対象道路

- ・ **防災**
…緊急輸送道路、避難路
- ・ **景観形成・観光振興**
…世界遺産や歴史的
・ 文化的風土形成地域
- ・ **県と市町村とのまちづくり**
…県と市町村がまちづくりを進める上で、必要性について合意した地域

目標約19kmの事業着手
防災(約15km)
観光・まちづくり(約4km)



まちづくり連携協定の例
三輪山線 整備後イメージ

- 令和2年度実施箇所
 - ・ 国道308号(奈良市) ・ 三輪山線(桜井市)
 - ・ 橿原神宮東口停車場飛鳥線(明日香村)
- ほか

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
289	—

(48) 土地利用とまちづくり

これまでは

土地利用基本計画

個別計画間の総合調整機能を十分には発揮していない

個別計画

都市計画区域
マスタープラン

地域森林
計画

自然公園計画

農業振興地域
整備計画

自然環境
保全計画

各個別計画も
それぞれ他の計画と
連携していない

土地利用に関する様々な課題が出てきた

土地利用の課題を解決する
「新たな土地利用の仕組み」が必要

もっと良くするために

検討

土地利用に関する懇談会

- ・奈良県の今後の土地利用のあり方及び方向性の検討
- ・土地利用の総合調整に係る新たな仕組みの検討

マスタープラン型ではなく
ボトムアップ型のまちづくり

実施

奈良県市町村長サミット⇒地域フォーラム

- ・土地利用ビジョンを各地域で作成・共有
- ・公平で透明性のある土地取得
- ・土地利用ビジョンからのゾーニングプラン・インフラ計画

ゾーニングプランをマスタープランへ組入

「新たな土地利用の仕組み」を構築します

奈良県総合土地利用計画(仮称)
総合調整機能が発揮できる土地利用計画を模索



令和2年度予算(百万円)

当初予算

補正予算

10

—

(49) 奈良県のすまい方改善

これまで

奈良県のすまい方改善の課題は、①**住民の高齢化** ②**住宅地の陳腐化** ③**住宅の老朽化**

高齢世帯のうち「夫婦のみ」の割合
全国1位(65歳以上世帯の37.7%)

大学進学率 全国7位、
地元大学進学率 全国45位(14.9%)

第一種低層住専地域の割合
全国5位(27.1%)

○現時点では問題が大きく目立っていないが直近にも高齢化問題が深刻化の可能性
○高齢者のみ世帯の課題
①生活不便 ②老老介護
③孤独死 ④空き家
○県内要介護者数予測
7.1万人→8.2万人→9.7万人
(2015) (2020) (2025)

昭和40年度以降住宅群が大幅に増加(S40→H27の増加率は全国4位)
・新興住宅地の戸建て 約10万~15万戸
・市街地のマンション 約5.5万戸
・公的賃貸住宅 約3.8万戸

【住宅地の陳腐化】
・身近な生活施設等・労働の場の不足
人口当たり 小売店数 全国41位
65歳以上の就業割合 全国46位
・共働き世帯に向かない住宅地
共働き世帯の割合 全国47位(42%)
【住宅の老朽化】
・積立金の不足、更新に係る合意形成の困難さ
・一斉老朽化のリスク管理

もっと良くするために

桜井市の近鉄大福駅周辺地区において、桜井市とのまちづくり包括協定を踏まえ、市と協働して県営住宅用地を活用したまちづくりを推進

・令和2年度は第1期事業区域の建築工事及び第2期事業区域の基本設計を行う



住生活基本計画・長寿命化計画の見直しと下記の諸課題を検討

- ・高齢者等の福祉政策と連携した住宅政策
- ・高齢者への利便性の高い住宅提供、子育て世帯・現役世帯への職場に身近な住宅の提供
- ・住民の高齢化等による住宅の空き家化の予防、再生に向けた検討
- ・公営住宅のストック活用と老朽化した住宅の更新・集約化検討 等

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
2,145	—

(50) 移動目的に応じた便利向上のための交通サービスの確保

これまでは

奈良県民の移動手段は、大阪までの通勤、買い物の目的のためには便利でしたが、**域内での通勤、通学、通院、買い物のためには不便な状況が続いていました。**

公共交通の結節性が悪かったバスターミナルや鉄道駅などを整備することで、乗り換えなどを便利にしてきました。

- ・田原本町: 田原本駅と西田原本駅を結ぶ場所にロータリーを整備。
- ・大和高田市: 市民交流センターの前にコミュニティバスの乗継拠点としてバス停を整備。



田原本駅前ロータリー



大和高田市市民交流センター前
バス停留所

成果

- 広域の路線バス22系統、広域コミュニティバス2系統の運行に対し補助しました。
- ノンステップバス6台の新たな導入を支援しました。
- 運行効率化の調査・検討や利用環境整備を行う7市町村に対し支援しました。

もっと良くするために

域内の生活利便向上のため、**移動目的にかなう交通サービスの確保**に努めます。

- 利用ニーズに応じた交通サービス確保のため、**広域の路線バス、広域コミュニティバス**への運行とノンステップバス購入に対し補助
- 市町村等が行う地域公共交通網形成計画策定、利用環境整備を支援
- 奈良交通が行う**バスロケーションシステム導入**、観光地広域周遊バス実証運行等を支援
- MaaS**、コミュニティタクシー、駅舎リニューアル手法等、新たな交通サービスの調査・検討

MaaS の一事例

出発地から目的地まで多様な交通モードの検索・予約・決済をひとつのサービスとして提供



令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
339	—

(51) 自転車の安全な利用促進、駐輪場の整備

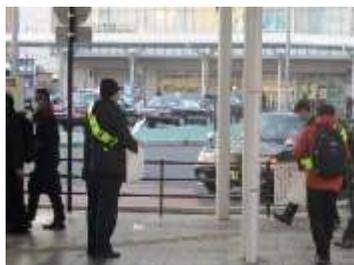
これまでは

令和元年10月15日
「奈良県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を公布しました。

(目的) 自転車の利用に係る交通事故の防止及び被害者の保護を図る

- ・交通安全教育の実施
- ・自転車所有者等の保険加入義務化
(令和2年4月1日施行)
- ・高齢者のヘルメット着用努力義務化
(令和2年4月1日施行)

○保険加入の促進を図るため、街頭活動やポスター等での周知、保険会社との事業連携協定等、条例の普及啓発に取り組みました。



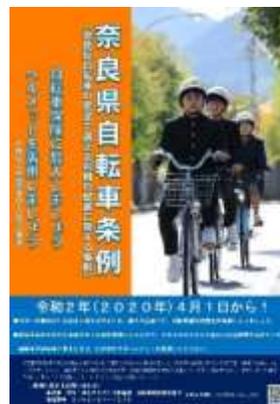
成果

- 令和2年4月1日から「自転車所有者等の保険加入義務化」、「高齢者のヘルメット着用努力義務化」が施行されました。
- 県が保有するすべての公用自転車(120台)の自転車損害賠償責任保険に加入しました。

もっと良くするために

「自転車所有者等の保険加入義務化」、「高齢者のヘルメット着用努力義務化」の周知を図るとともに、自転車の適正な利用促進等を推進します。

- 条例の普及と定着に向けて、教育機関等への指導者用テキストの配布、事業所や県民向け広報、幼稚園等における自転車交通安全教育を行います。
- 駐輪場の整備を市町村等へ働きかけます。



令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
2	—

(52) 自治会等との連携協力強化

これまでは

自治会の活動は、地域の安全・安心・防災・健康増進等にとって有意義で大事なものですが、県の行政とあまり接点はありませんでした。また、住民の地域とのつながりの希薄化、担い手不足、高齢化等が課題となっています。

- 令和元年度に県自治連合会に奈良市が加入、参加市町村が18市町村になりました。

成果

- 令和2年度(6月)に県自治連合会に天理市が加入、県全体の自治連合会への参加市町村が19市町村となりました。
- 令和令和元年度中に地域の防災訓練の支援(5市町村)、アドバイザーの派遣(35回)を実施しました。



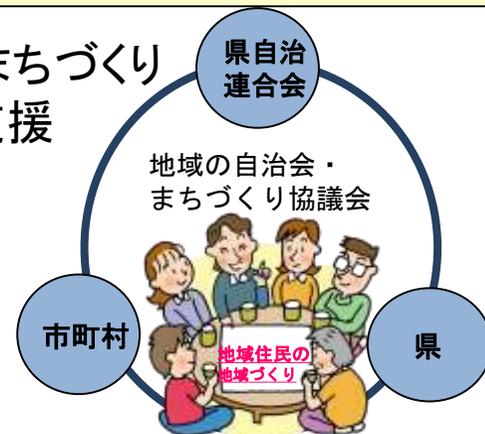
県自治連合会加入市町村

もっと良くするために

自治会との連携をもっと強めます。

- 地域の自治会とまちづくり協議会の活動を支援

- **未加盟市町村に** 県自治連合会への加盟を働きかけ



自治会の先進事例、活動状況情報を収集・共有します。

- 「奈良県自治会ジャーナル」を発行

地域の防犯・防災活動を支援、安全・安心まちづくりアドバイザーの派遣を行います。

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
6	—

9 地域で子どもを健やかに育てる

(53) 保育の量の確保と質の向上

これまでは

保育の受け皿整備を進めてきました。

- ①施設数が増加
(H27.4 225施設→R2.4 268施設(+43施設))
- ②定員が増加
(H27.4 26,293人→R2.4 28,514人(+2,221人))
- ③受入児童数が増加
(H27.4 23,763人→R2.4 25,472人(+1,709人))

成果

○県と関係市町村により立ち上げた「待機児童対策協議会」において、保育士の子どもの優先入所等について協議を進めています。

○保育士確保対策を実施しました。

- ・「保育人材バンク」によるマッチング
- ・子育ての仕事就職フェアの実施

8/23 WEB合同説明会

9/27 県コンベンションセンター

もっと良くするために

引き続き、保育の受け皿の拡大と質の向上に努めます。

子どもを安心して預けられる受け皿確保

- ・市町村による保育施設整備への支援
- ・小規模保育所の推進、広域利用調整推進の検討
- ・認可外保育施設の質の確保

保育士の確保・定着、資質の向上

- ・保育士修学資金等貸付制度の充実
- ・保育士のキャリア構築支援
- ・処遇改善に向けたキャリアアップ研修
- ・保育士支援アドバイザー設置
- ・ロールモデルとなる保育士のスペシャリストの養成を検討

令和2年度予算(百万円)

当初予算

補正予算

1,539

(54) 子育て不安の解消

これまでは

○奈良県の子育て不安の実態

- ・子育て中の妻の約半数が子育ての不安感・負担感を感じている。
- ・家事や育児の分担は妻に偏っている(約8~9割)
- ・夫の約半数が、妻が一番しんどいと感じる「授乳等、夜泣きの対応」を全くしていない。
- ・2番目にしんどいと感じることは「子育てが分からない」こと。

○課題

専業主婦率、核家族率全国1位の奈良県において、母親の子育ての不安感・負担感の増大は「産後うつ」「虐待」につながる恐れ

○これまでの取組

妊娠期からの切れ目のない子育て支援を強化するための市町村体制整備・充実

- ・母子保健の拠点である「子育て世代包括支援センター(設置32市町村)」と児童虐待防止対策を含む子育て支援の拠点である「市町村子ども家庭総合支援拠点(設置9市町村)」の設置促進研修会の開催
- ・親子が交流や相談ができる場「地域の子育て支援拠点」(県内74ヶ所設置)従事者向け研修会の開催

成果

○「奈良県すべての子ども健やかはぐくみプラン」を令和2年3月に策定しました。

もっと良くするために

親が安心して子育てできる「家庭」と「地域」をつくっていきます。

妊娠期からの切れ目のない子育て支援

- ・教育・保育の利用についての相談、児童預かり等を行うファミリーサポートセンターの運営等に対し市町村を支援
- ・地域子育て支援拠点の運営を通じて、子育て早期からの相談に対応、市町村子ども家庭総合支援拠点の設置及び機能強化に向けた支援
- ・市町村の子育て世代包括支援センターを支援
- ・市町村のファミリーサポートセンター事業等の従事者に対する新型コロナウイルス感染症拡大防止研修の実施

多様な主体による子育て支援環境の整備

- ・ならコープとの連携で子育て応援「つながる箱」をプレゼント
- ・企業が行う「なら子育て応援団」の取組支援
- ・保育士養成機関(大学)の公開講座実施を支援

男女が互いに尊重し合い喜びを分かち合う子育ての促進

・奈良県パパ産休プロジェクト

配偶者の産後すぐに夫が休暇をとることの重要性を父親になる男性本人と雇用先の企業に理解してもらうための研修ツールを作成し、「パパ産休」の取得を促進

令和2年度予算(百万円)

当初予算	補正予算
243	3

(55) 児童虐待防止

これまでは

【現状】

- ・児童相談所の児童虐待相談対応件数 平成30年度1,825件
- ・市町村の児童虐待相談対応件数 平成30年度2,643件
- ・コロナ禍においては、学校等の休業や外出自粛で子どもの見守り機会が減少。様々な地域ネットワークを総動員して、支援ニーズの高い子ども等を定期的に見守る体制の確保に努めた。

【課題】

- 〈市町村〉相談対応件数が急激に増加しており、**対応力を向上**させることやコロナ禍においては、家庭訪問や電話しづらい等により、要支援児の状況把握が約8割にとどまっていること
- 〈県〉児童相談所と警察、医療機関、学校等との間で**緊密な連携**を図り、子どもの生命・身体を守ること

【対策】

- 〈市町村〉・職員を中心に、児童虐待対応研修会等を開催
・子ども家庭総合支援拠点の設置促進
- 〈県〉・令和元年度より、警察からの情報照会に24時間365日対応するとともに、児相と警察との情報共有の進捗状況の検証を実施

成果

- 「奈良県社会的養育推進計画」の策定及び「奈良県児童虐待防止アクションプラン」を改定しました。
- 市町村への個別アドバイス等を行い、「市町村子ども家庭総合支援拠点」が5カ所増えました。

もっと良くするために

すべての子どもが健やかにはぐくまれるよう、児童虐待防止対策を充実し、**児童虐待による死亡事例ゼロを目指します。**

虐待の未然防止

- ・予期しない妊娠への相談対応力向上
- ・児童虐待対応力向上研修、未然防止啓発

虐待発生後の対応強化

- ・施設入所児童の自立支援
- ・**里親制度と特別養子縁組制度の推進**

県と市町村の体制の強化

- ・市町村子ども家庭総合支援拠点の取組充実を支援
- ・**児童相談所における専門職確保のための社会福祉士養成学校への就職説明**
- ・高田こども家庭相談センターの改修
- ・県と市町村の医療機関・学校との連携強化

新型コロナウイルス感染症への対策

- ・緊急性の高い虐待通告による安全確認や状況把握が必要な未就園児の安全確認を市町村と連携し実施するための職員配置

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
55	6

(56) 子どもの居場所づくり、里親制度の強化

これまでは

県内企業や民間団体の力を活かし、「こども食堂」を拡充

- ・令和2年3月末までに56団体が設置
- ・民間企業(食品加工業)が商品提供し、「こども食堂」を支援
- ・企業・団体サポーターも参加してこども食堂ネットワーク形成
- ・県補助金による支援

空き教室等を利用し、保護者が昼間家庭にいない子どもたち(放課後児童)に遊びや生活をする場を提供する(放課後児童クラブ)

- ・整備が進み施設数が増加 H27⇒R1 364クラブ(+67クラブ)
- ・受入児童数が増加 H27⇒R1 16,056人(+3,616人)
- ・担い手である支援員数が増加 H27⇒R1 1,832人(+609人)

成果

- 県内小学校区の全てに「こども食堂」を設けるため、**県コーディネーターを配置し、民間企業の掘り起こしや開設・運営かかる相談支援**を行っています。
- 放課後児童クラブの**人材確保のため、保育人材バンクでマッチングを開始**しました。
- 「奈良県社会的養育推進計画」を策定**しました。

もっと良くするために

県内196小学校区に1箇所、「こども食堂」を設けます。

- ・県コーディネーターによる支援
- ・外出しにくい状況であっても、子育て家庭が孤立しないよう、食事の配達や持ち帰りを通じた**子育て家庭の見守り活動を支援**
- ・県産牛肉等の食材を購入し、**奈良の食材を味わう機会を提供する活動を支援**

放課後児童クラブの**支援員の質の向上と人材確保に努めます。**

- ・**リーダー支援員の育成**
- ・**要支援児童の対応等資質向上のための専門研修の実施**
- ・放課後児童クラブ巡回サポートによる支援
- ・**保育人材バンクのPR強化**

里親と保護者に**里親制度を理解**していただくための研修、説明の充実、児童の自立サポート、退所後の居場所づくりを実施します。

- ・里親登録数を増やす広報啓発
- ・専門性向上のための研修
- ・施設入所児童の就労支援、施設退所者の居場所づくり
- ・特別養子縁組あっせんへの支援

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
188	16

(57) 子どもの通学通園路の安全確保

これまでは

通学通園路の**交通安全**の観点から、H24年以降、関係者の合同点検を実施

- ・平成24年京都府亀岡市での事故を受け、緊急合同点検を実施
- ・平成25年～現在まで
全市町村での「通学路交通安全プログラム」に基づき、関係者で定期的に合同点検を実施
→県全体で情報共有し、改善を図る
- ・令和元年滋賀県大津市での事故を受け、未就学児の集団移動経路を含めた合同点検を実施

点検の結果、発生した対象箇所に、順次、対策を実施してきています

- ・H24点検 点検1,341箇所→改善1,323箇所
- ・ソフト対策 通学路の変更、見守り活動強化、生徒の待機場所の移動
- ・ハード対策 防護柵等の設置、路肩のカラー化、信号機のLED化、横断歩道の補修

成果

○桜井市が積極的に取り組まれ、県内初のキッズゾーン（路面を色づけしてドライバーに安全運転を促すゾーン）が設置されました。

もっと良くするために

交通安全の観点に**防犯、防災**の観点を加え、**県内の全通学通園路**の合同点検を継続的に実施

○令和元年度の点検数は整理してとりまとめ、県内全関係者で情報共有

点検の結果、発見考案した対策メニュー順次実施

- 教職員を対象とした安全教育研修の開催
- 登下校防犯プランに基づく防犯カメラの設置補助
- 私立学校における児童生徒の安全確保取組への補助
- 合同点検結果を踏まえた対策必要箇所のハード対策の実施

【ソフト対策メニュー例】

- ・通学路の変更
- ・見守り活動の強化
- ・可搬式速度違反自動取締装置の追加整備
- ・生徒の待機場所の移動

ガードパイプ等の設置

【ハード対策メニュー例】

- ・ガードパイプの設置
- ・路肩のカラー化
- ・信号機のLED化
- ・横断歩道の補修



令和2年度予算(百万円)

当初予算

補正予算

779

80

10 女性活躍の推進

(58) 女性の働き方改革と仕事場づくり

これまでは

○奈良県女性(20~64歳)の就業率は、全国最下位(62.8%)であるものの、**過去5年間の伸び(6.3ポイント)は全国1位**で、第1子出産後も仕事を継続する割合が5年前の4割から5割に増加しました。

○県内女性の就業の現状分析では、女性の希望と企業の求めるものとの齟齬や、「女性活躍」に関する経営者の認識の遅れが見られるなどの課題があります。

女性の希望をかなえ、女性が活躍できる気運醸成の環境を整備(企業・事業所等に就労継続・再就職支援等の具体的な取組を働きかける)

- ・「なら女性活躍推進倶楽部」を設立しました。
119企業(607事業所)
- ・企業向けセミナー開催、様々な媒体での企業の魅力発信

県内の女子大学生や再就職を希望する女性の就職や活躍し続ける意識を醸成

- ・女性のための再就職応援フェスタの開催
- ・大学生のための就活準備フェアの開催

成果

○就職の一手手前の段階にいる女性の就業を支援するため、女性センター内に「女性の再就職準備相談窓口」を開設しました。

もっと良くするために

女性が就労により能力を発揮できるよう、企業や女性に向けた取組により、企業での活躍やジョブマッチングなど地域に根ざした新しい仕事場づくりなど様々な働き方での女性活躍を推進します。

企業向けの女性活躍推進のための取組

- なら女性活躍推進倶楽部の企業と連携した取組
 - ・異業種交流会等で女性活躍の先進事例を横展開
 - ・企業の女性管理職の登用促進
 - ・女性活躍が進む企業や、まだ知られていない県内企業の魅力発信

働きたい女性、働いている女性への支援

- 女性の再就職準備相談窓口でのスキルアップ支援(女性センター)
 - ・再就職希望の女性や若年女性に企業情報を提供
 - ・再就職の準備段階からの支援
- 働く女性の悩み相談(女性センター)

新たな分野にチャレンジする女性への支援

- 支援団体と連携した起業を目指す女性の活躍支援

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
20	—

(59) 結婚支援・出生率上昇

これまででは

奈良県の25歳から39歳の未婚率は41.4%で全国3位であるなど、**若者の未婚率が高く、平均初婚年齢が上昇し、晩婚の状況が見られます。**

都道府県	25～39歳女性未婚率	順位
全国	38.2%	—
東京都	43.6%	1位
京都府	42.8%	2位
奈良県	41.4%	3位
宮崎県	33.7%	46位
島根県	33.6%	47位

平成27年国勢調査



人口動態調査

令和元年の奈良県の合計特殊出生率は0.06ポイント下降し、1.31で全国順位は39位となり、平成30年の1.37(全国順位38位)から下降しました。(増減率23位)

【合計特殊出生率
全国順位】

都道府県	合計特殊出生率(順位)	前年増減	増減順位
全国	1.36		—
沖縄県	1.82(1位)	▲0.07	33位
宮崎県	1.73(2位)	+0.01	3位
奈良県	1.31(39位)	▲0.06	23位
宮城県	1.23(46位)	▲0.07	33位
東京都	1.15(47位)	▲0.05	17位

令和元年人口動態調査

もっと良くするために

若者の**結婚を応援**する地域・職場づくりを推進します。

- 「なら結婚応援団」の情報発信
- 結婚を応援する市町村を支援

子育て不安の解消は**出生率の向上**に繋がることを意識し、子育て支援を実践します。

○子育て支援をする市町村を応援

- ・地域子育て支援拠点の運営支援
- ・ファミリーサポートセンター運営等支援
- ・子ども家庭総合支援拠点の設置推進、子育て世代包括支援センター支援

○企業等との連携による子育て支援

- ・子育て支援「つながる箱」をプレゼント、「なら子育て応援団」の情報発信、大学と連携した子育て支援

男女とものワーク・ライフ・バランスを実現し、働きやすく、幸せに感じながら暮らせる奈良県をつくれます。

令和2年度予算(百万円)

当初予算 補正予算

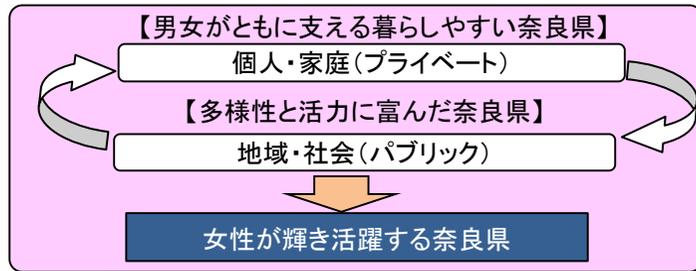
244

—

これまで

○女性の輝き・活躍促進計画(H28～R2)により、下記の基本理念に基づき、取組を進めてきました。

「奈良県の女性が輝き活躍するために男女ともにライフステージの各段階で多様な選択肢の中から自らの道を選択できる社会を実現します」



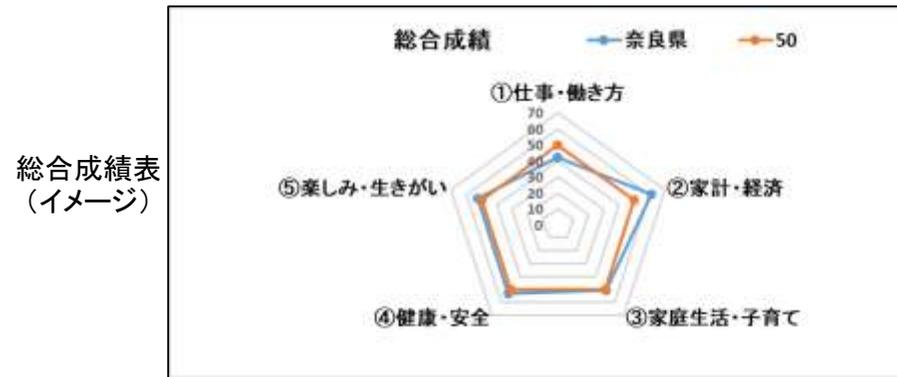
○現計画の進捗からみた課題

- ①女性の就業に関しては一定の成果
[女性の就業率(25～44歳)] ②61.4%→⑦67.8%
[妻の第一子出産後の継続就業率] ⑤約4割→⑩約5割に増加
- ②母親の子育ての負担感・不安感の軽減は、ほとんど改善していない
[子育てに心理的・精神的な不安感・負担感を感じる母親の割合] 約半数が感じており、5年前より増加
- ③男性のワーク・ライフ・バランスは、大きな成果が見られない
[男性の働き方] 長時間労働割合、通勤時間、帰宅時間が依然全国上位
[男性の家事関連従事時間] 50分(全国3位)、女性237分(全国1位)
- ④固定的性別役割分担意識は依然全国より高い
[固定的性別役割分担意識に肯定的な人の割合] ⑥49.6%→R元42.9%(全国:35.0%)

もっと良くするために

女性の幸せを総合的に測る指標を設定して評価し、**弱点分野の底上げともっと伸ばす分野に重点的に取り組みます。**

「仕事・働き方」「楽しみ・生きがい」など分野・項目毎に、**幸せを測る指標の偏差値**を算出し、**弱みと強みを明らかにする。**



- 幸せや生きがいを感じられる「主体的に選択して過ごす時間」を意識したワーク・ライフ・バランスの実現**
(施策)新しい働き方・暮らし方の推進
- 男女の意識改革が進む**

○女性が十分に力を発揮でき、**幸せを感じながら暮らせる女性が増える。**
※評価結果は、次期女性活躍推進計画にも反映

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
—	—

(61) ひとり親家庭支援

これまでは

- ・母子世帯では、パート・アルバイト等の非正規雇用が約4割
- ・母子世帯の平均年間就労収入は約200万円
(H28年度全国ひとり親世帯等調査)
- ・ひとり親世帯の貧困率(H30: 48.1%)は、子どもがいる全世帯の貧困率(H30: 13.5%)の約3.5倍
(H30国民生活基礎調査)

子どもの貧困率	H24年	H27年	H30年
子どもがいる世帯	16.3%	13.9%	13.5%
上記のうち ひとり親世帯	54.6%	50.8%	48.1%

ひとり親世帯の
約半数が貧困

これまでの支援

奈良県母子家庭等就業・自立支援センター(スマイルセンター)で、就業相談や就業情報の提供、講習会開催など、**就業支援**を実施

- 就業相談、**自立支援プログラム策定(R1就業実績: 109人)**
 - ・個々の状況に応じた就業支援計画を策定し、ハローワークに相談のうえ、就業につなげる。
- 弁護士等による専門相談
 - ・法律相談(令和元年度: 41人)
 - ・養育費、面会交流等の相談(令和元年度: 43人)
- 就業支援講習会(IT講習)等(令和元年度34人)など



成果

- ニーズを踏まえた貧困対策を行えるよう、「**こどもの生活に関する実態調査**」を取りまとめました。
- 「**子どもの貧困対策会議**」を開催し、貧困対策にかかる**施策の取組状況**について議論しました。

もっと良くするために

仕事を応援

求職者を確実に就職に結びつけます。

- 「母子家庭等就業・自立支援センター」(スマイルセンター)の運営を支援
 - ・就業支援員の個別アドバイスの強化
- 次期「**子どもの貧困対策及び母子家庭等自立促進計画**」の改定
- 感染防止に配慮した相談環境の整備**

生活を応援

ひとり親家庭の子育て生活を支援

学びを応援

資格取得による自立を促進

- ひとり親家庭の子育ての相談・生活改善支援の研修
- 自立支援教育訓練給付金等を活用

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
39	1

11 エネルギー政策

(62) 節電・緊急時のエネルギー供給

これまでは

電力の逼迫状況は緩和されたため、節電だけでなく、エネルギーを効率的かつ有効に利用する取組を進めてきました。

- スマートハウスの普及促進
 - ・住宅への創エネ・畜エネ設備の普及促進
- 事業所が行う省エネ設備導入への支援
 - ・エネルギーの効率化にかかる設備の導入支援
- かしこいエネルギーの使い方についての啓発・連携
 - ・エネルギー教室の開催等、意識啓発に取り組んでいます。

県内避難所への非常用電源の整備に向けた取組を進めてきました。

- 緊急時の電力等の確保
 - ・小規模避難所等におけるEV・LPガス発電設備等の整備支援
- 災害病院の災害時のエネルギー対策
 - ・病院における自家発電装置稼働のための燃料備蓄

成果

○令和元年度の非常用電源が整備された避難所の割合は51.5%となり、令和3年度の目標値である50%を達成しました。

もっと良くするために

エネルギーをかしこく使うライフスタイルの定着を図ります。

- 地域にある再生可能エネルギーの活用支援
- 県内での消費量の約50%を占める産業用エネルギーの効率化設備導入補助



手作り水車の導入（山添村）

緊急時に必要なエネルギー対策を進めます。

- 蓄エネ・創エネ設備導入する個人に補助
- 小規模な避難所への非常時電力供給設備導入への補助

「第3次奈良県エネルギービジョン」に基づく施策を実行します。

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
34	—

(63) 県内水素ステーション設置・バイオマス利活用の体制強化

これまでは

県内初の水素ステーション整備に向けた取組を進めてきました。

国は水素ステーション整備について、2020年に160箇所、2030年に900箇所という目標を掲げている。

近畿で唯一県内に水素ステーションがないため設置が必要。

環境にやさしいエネルギーの利活用に向けた取組を進めてきました。

木質バイオマスの普及促進等再生可能エネルギー資源の活用

- ・ペレットストーブの実証稼働
- ・木質バイオマス加工利用施設等の整備促進等を行ってきました。
- ・早稲田大学との連携事業により、地域の森林資源を活用した地域のチップ工場を核とした、木質バイオマスの導入を検討し、森林資源を地域で循環させる仕組みを検討しました。

成果

○水素ステーションについては、候補地選定の協力等の取組を進めた結果、設置を希望する事業者があり、令和2年度中の水素ステーション開設を目指し、支援をしています。

もっと良くするために

水素ステーション整備に向けた支援を行います。

- 民間事業者による県内でのステーション建設に要する設計・工事・設備等の経費対し補助



(水素ステーションイメージ)

木質バイオマスの普及促進を行います。

- 木質バイオマス利用施設の整備に対し補助
- 市町村等を対象とした木質バイオマスエネルギーを活用した地域内エコシステムの実現可能性を調査。利活用検討会議の開催

令和2年度予算(百万円)

当初予算	補正予算
70	—

IV 便利な「都」をつくる

～県土マネジメントを推進し、効率的で便利な交通基盤をつくる～

12 道路整備

- (64) 京奈和自動車道の整備
- (65) 京奈和自動車道関連
奈良エリア・西九条佐保線
- (66) 京奈和自動車道関連 橿原・高田エリア
- (67) 大和平野中心部 国道163号
- (68) 大和平野中心部 国道168号と周辺道路
- (69) 大和平野中心部 大和中央道
- (70) 大和平野中心部 阪奈道路結節点
- (71) アンカールート国道168号 五條エリア
- (72) アンカールート国道168号 十津川エリア
- (73) アンカールート国道169号 御所・高取エリア
- (74) アンカールート国道169号
川上・上北・下北エリア
- (75) 大和平野東部
- (76) 道路の維持管理の計画化・体系化
- (77) 域内道路の整備方針検討、奈良県道路
整備計画の推進
- (78) 道路整備個別箇所検討
- (79) 用地買収・用地補償の円滑な進め方の検討

13 鉄道整備

- (80) 近鉄西大寺駅の高架化
- (81) 近鉄奈良線の移設
- (82) 鉄道駅バリアフリー化の促進
- (83) リニア中央新幹線「奈良市附近」駅の早期確定
- (84) リニア中央新幹線「奈良市附近」駅と関西空港
直結リニア新幹線

14 バス輸送環境整備

- (85) バス路線網改善についての不断の見直し
- (86) バス停アメニティ向上・バス輸送サービス改善

12 道路整備

(64) 京奈和自動車道の整備

これまでは

全区間事業化され整備が進んできました。
工事着手されていないのは大和北道路(仮称)奈良北ICから(仮称)奈良IC間のトンネル部分のみ

京奈和自動車道の整備状況



成果

○橿原北IC～橿原高田IC間は、平成29年3月末時点
104件の未買収地がありましたが、令和2年8月末時点
で8件まで減少しました。

もっと良くするために

国土幹線軸に繋がる南北の大幹線
京奈和自動車道の早期完成を目指します。

○大和北道路((仮称)奈良北IC～郡山下ツ道JCT) (12.4km)

有料道路事業の導入(H30年度)で
奈良県内全線が事業化されました。

奈良国道事務所及びNEXCO西日本と協力して事業推進を図ります。

・大和北道路は大和郡山市内でH31年3月に工事着手

○大和御所道路(橿原北IC～橿原高田IC) (4.4km)

奈良国道事務所と協力して事業推進を図ります。

・大和御所道路は橿原北ICから橿原高田IC間の本線部の下部工と
大和高田パイパスとつながるランプ橋の下部工を工事中

□用地買収に協力しています。

・県土地開発公社は大和北道路及び大和御所道路の用地買収に参加
県は大和御所道路の用地買収に参加

・県と国の「用地買収チーム」により積極的に買収を進め、**橿原北IC～橿原高田IC間の用地買収を早期に完了**。

(64) 京奈和自動車道の整備

もっと良くするために



大和北道路(大和郡山市横田町)

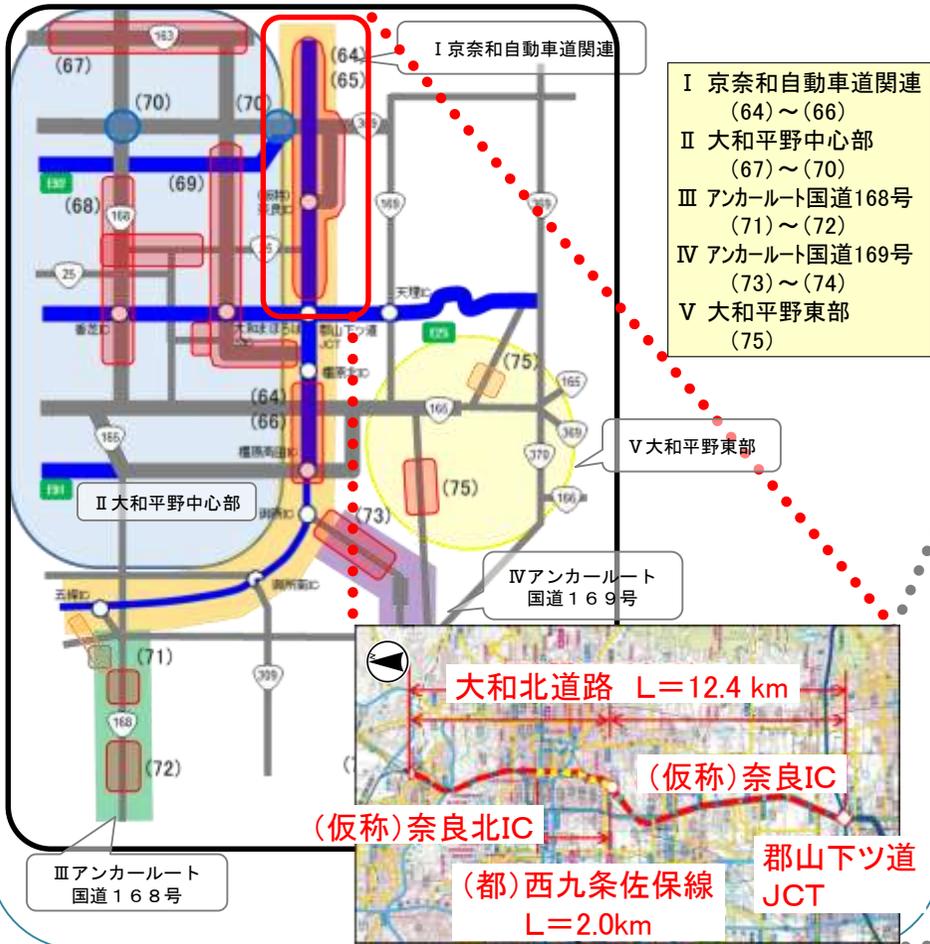


大和御所道路(橿原高田IC付近)

令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
5,664	—

(65) 京奈和自動車道関連 奈良エリア・西九条佐保線

これまでは



もっと良くするために

1 京奈和自動車道 大和北道路
(国、NEXCO西日本)

2 (都)西九条佐保線

事業着手年度:(仮称奈良IC~郡山下ツ道JCT :H20年度
(仮称奈良北IC~(仮称)奈良IC:H30年度)

(事業着手年度:H25年度)



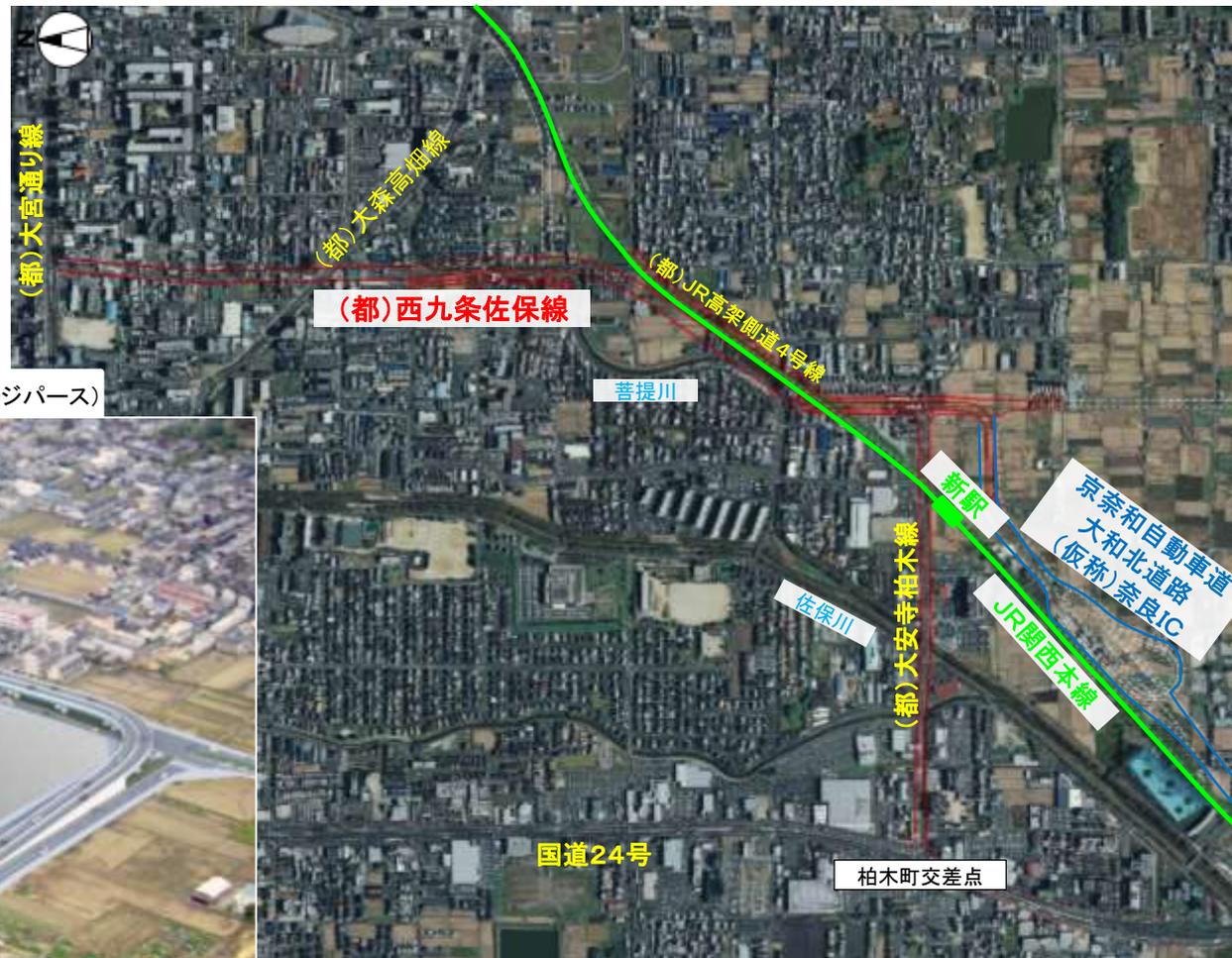
成果

○大和北道路:令和2年6月より橋梁下部工事に着手

(65) 京奈和自動車道関連 奈良エリア・西九条佐保線

もっと良くするために

- 1 関西大環状道路の一部を形成し、平成31年3月に起工式を行い、橋梁下部工事等を推進中
- 2 京奈和自動車道(仮称)奈良ICへのアクセス整備、鉄道高架化による地域分断の解消、一体的なまちづくりの推進



①(仮称)奈良IC・西九条佐保(周辺航空写真・周辺イメージパース)



令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
3,691	—

(66) 京奈和自動車道関連 橿原・高田エリア

これまでは



成果

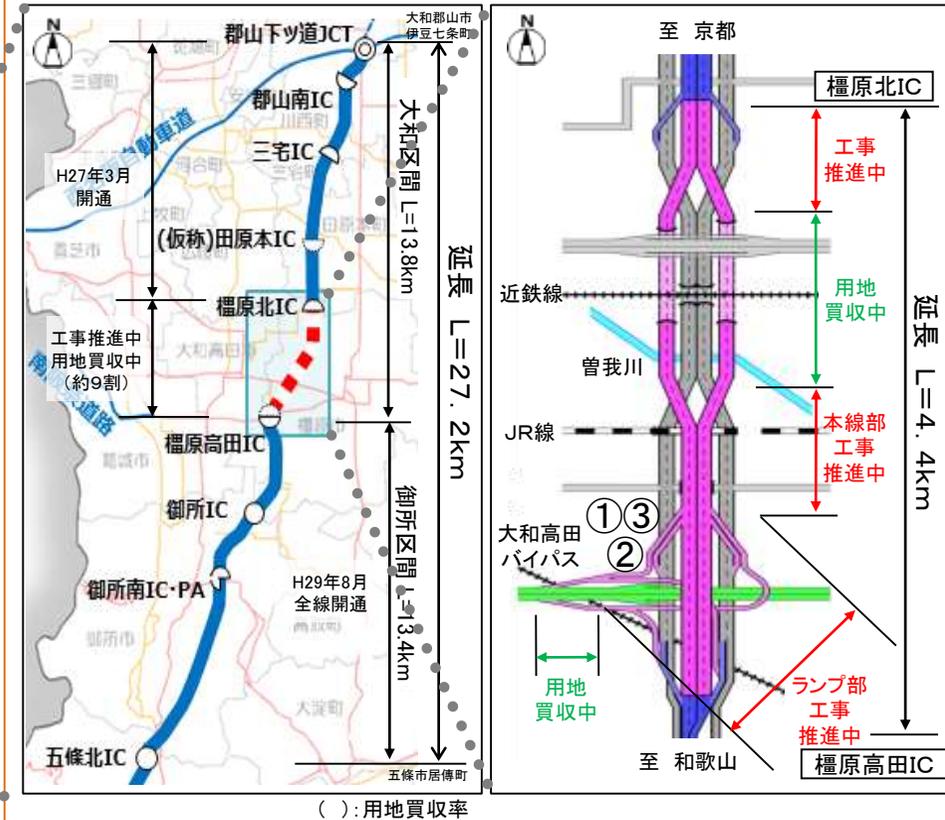
○平成29年3月末時点104件の未買収地がありましたが、令和2年8月末時点で8件まで減少しました。

もっと良くするために

京奈和自動車道(大和御所道路)

(事業着手年度: H4年度)

5工区(橿原北IC～橿原高田IC)

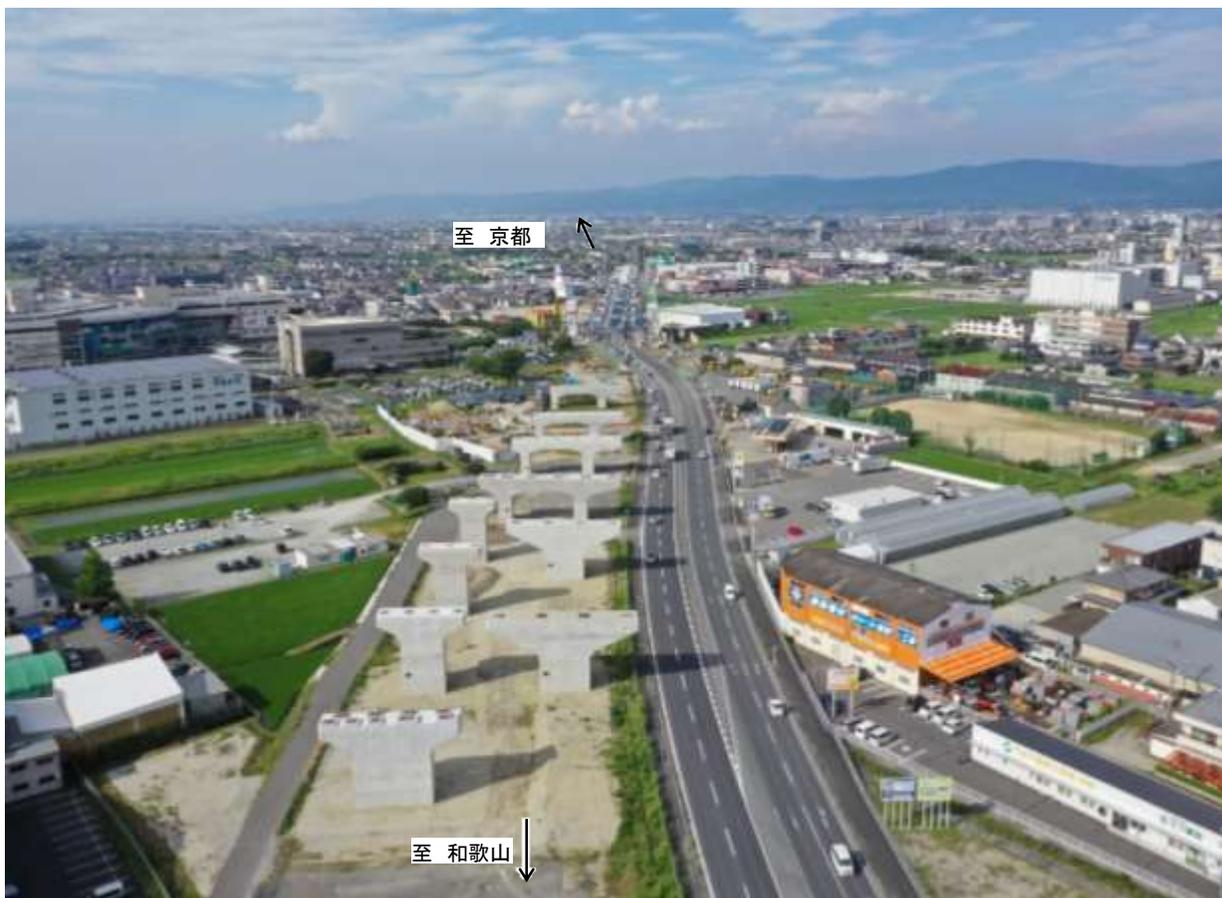


(66) 京奈和自動車道関連 橿原・高田エリア

もっと良くするために

○関西大環状道路の一部を形成し、本線部分の橋梁上部工事や大和高田バイパスのランプ部の橋梁上部工事に着手予定

① 橿原市新堂町本線部 (橋梁下部工事)



② 橿原市新堂町ランプ部 (橋梁下部工事)



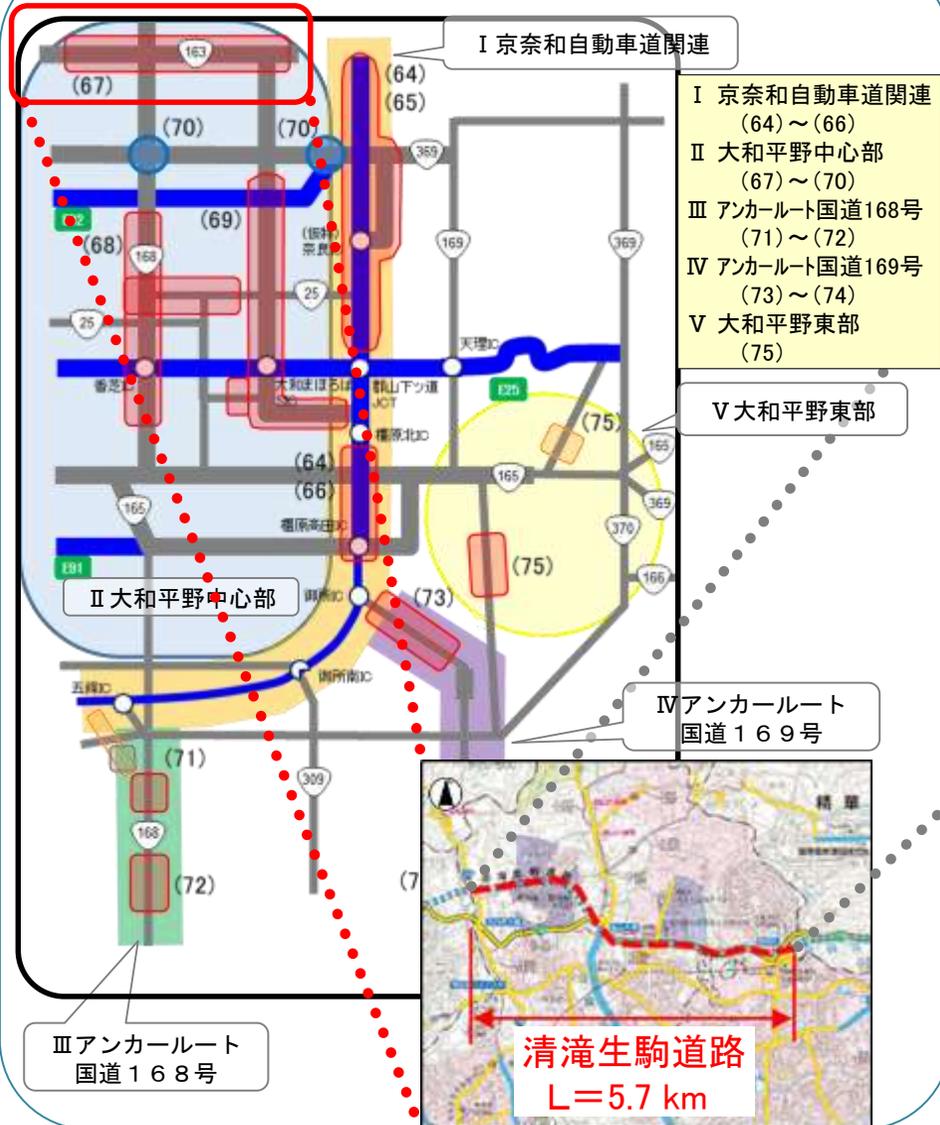
③ 橿原市曲川町本線部 (橋梁下部工事)



令和2年度予算(百万円)	
当初予算	補正予算
3,100	—

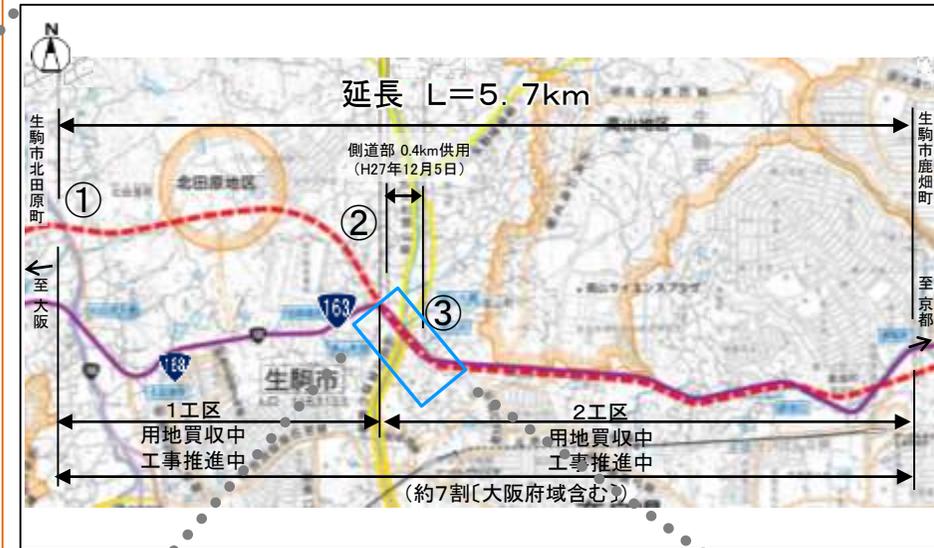
(67) 大和平野中心部 国道163号

これまでは



もっと良くするために

清滝生駒道路(事業着手:S61年度)



() : 用地買収率

高山交差点周辺(整備後)の状況 (平成27年12月5日供用)



(67) 大和平野中心部 国道163号

もっと良くするために

○奈良県北西部の府県間における東西ネットワークの強化による、関西文化学術研究都市などの地域活性化を支援
令和元年度より、(仮称)下田原東ランプの橋梁下部工事を推進中

①(仮称)下田原東ランプ(橋梁下部工事)



②北田原地区(土工事)



③高山高架橋(橋梁下部工事)



令和2年度予算(百万円)

当初予算

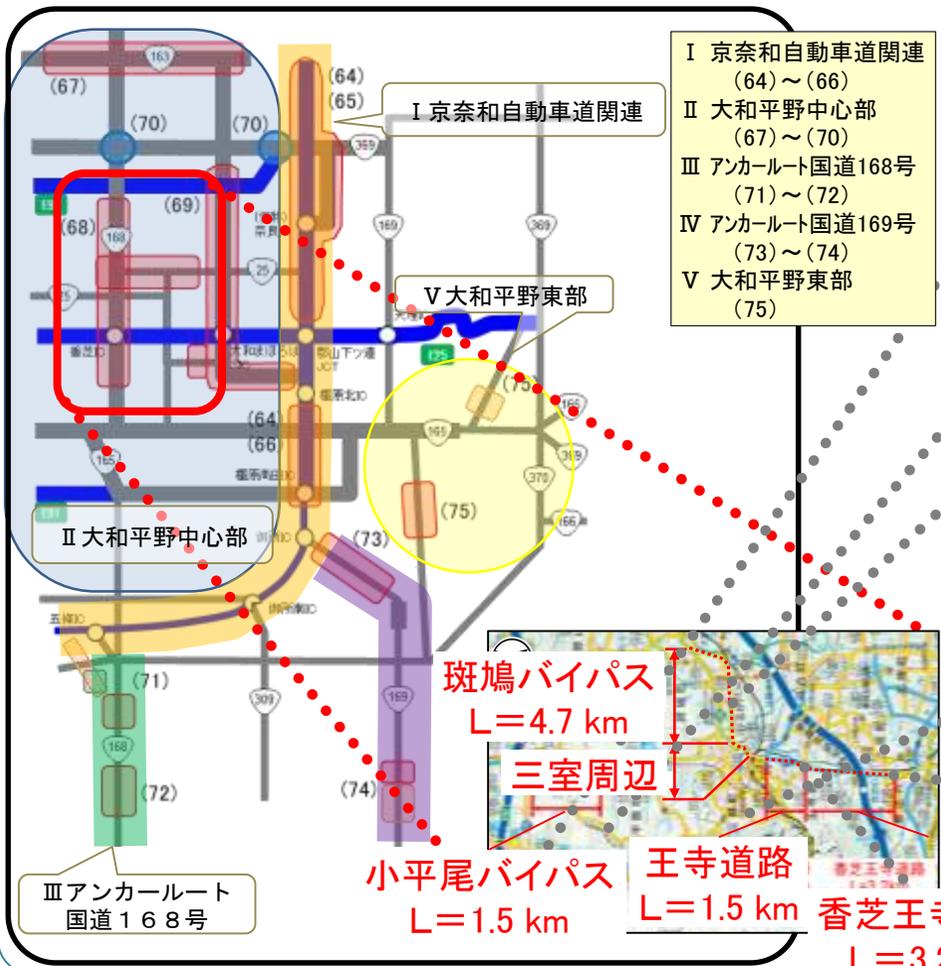
600

補正予算

—

(68) 大和平野中心部 国道168号と周辺道路

これまでは

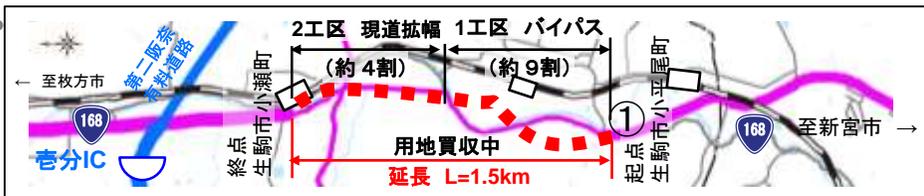


成果

○斑鳩バイパス: 三室交差点の改良工事が令和2年8月に完成(②)

もっと良くするために

1 国道168号 小平尾バイパス(事業着手:H19年度)



2 国道25号 斑鳩バイパス、三室周辺(国)(事業着手:S47年度)



3 国道168号 王寺、香芝王寺道路(事業着手:H13年度(王寺) 事業着手:H18年度(香芝王寺))



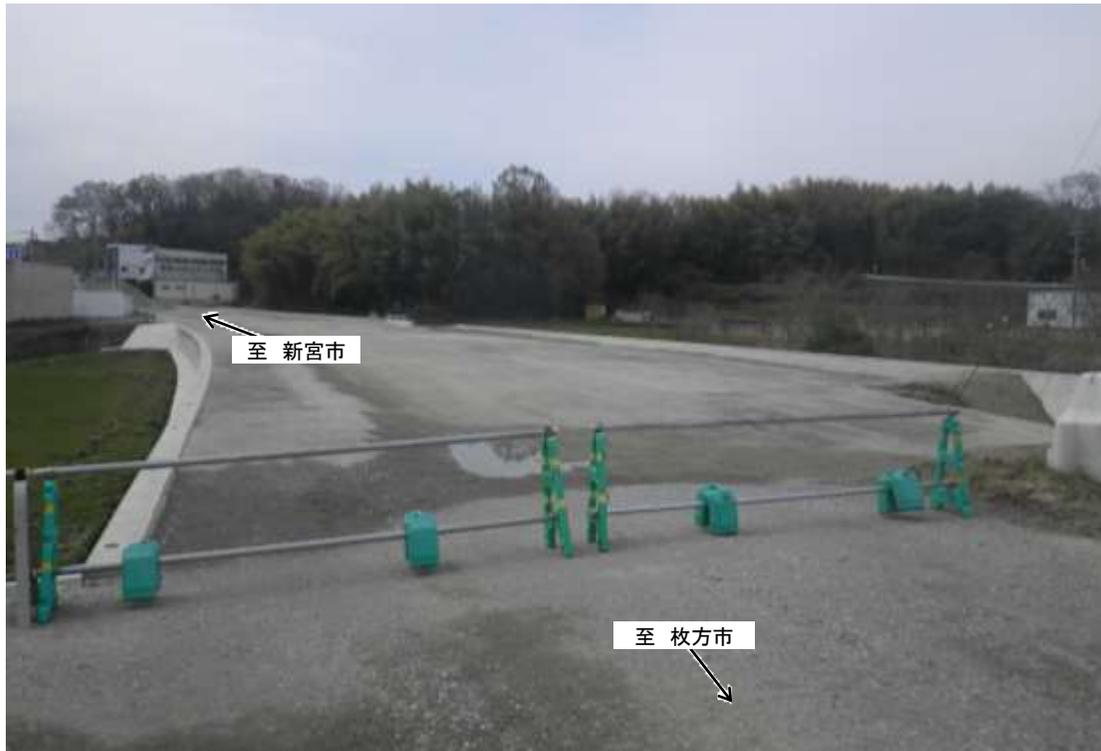
(): 用地買収率

(68) 大和平野中心部 国道168号と周辺道路

もっと良くするために

- 1・3 奈良県北西部の南北を結ぶ骨格幹線の形成による、交通混雑の緩和や交通安全性の向上を目指し、王寺道路は、令和元年度に残る区間の用地買収の目処がつき、順次工事を推進中
- 2 交通混雑の緩和による、観光の振興、緊急医療施設へのアクセス向上を目指し、岩瀬橋～三室交差点間の側道部において歩道整備等を推進中

①小平尾バイパス



②三室交差点 (交通切替後状況)



③王寺・香芝王寺道路



令和2年度予算(百万円)

当初予算

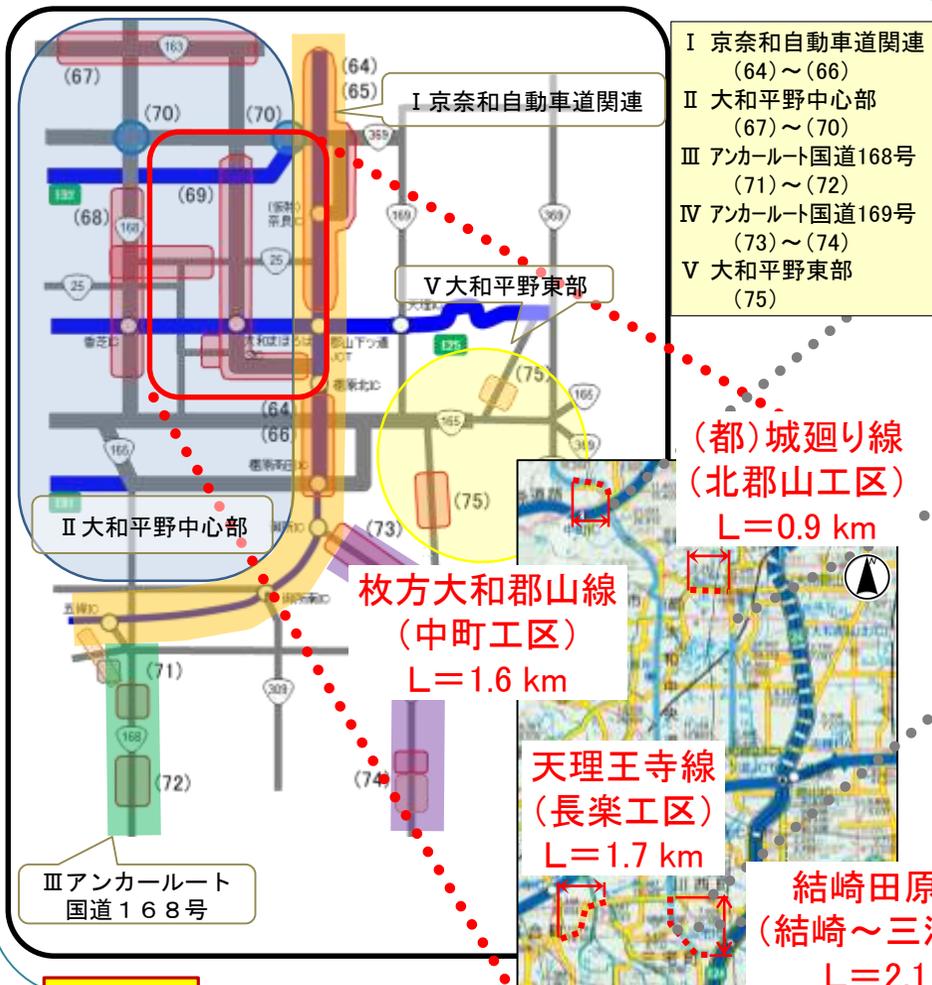
1,911

補正予算

—

(69) 大和平野中心部 大和中央道

これまでは

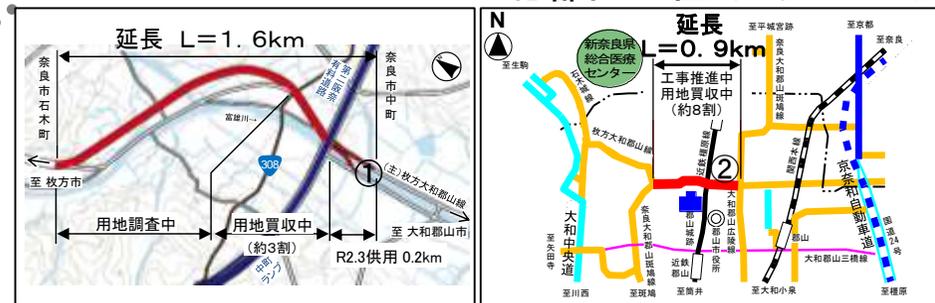


成果

- 中町工区: 令和2年3月に一部区間を供用(①)
- 長楽工区: 令和2年3月に一部区間を供用(④)

もっと良くするために

- 1 枚方大和郡山線 中町工区 (事業着手: H24年度)
- 2 (都)城廻り線 北郡山工区 (事業着手: H23年度)



- 3 結崎田原本線 結崎~三河工区
- 4 天理王寺線 長楽工区 (事業着手: H22年度)



(): 用地買収率

(69) 大和平野中心部 大和中央道

もっと良くするために

- 1 北西部の南北を結ぶ骨格幹線の形成による、交通混雑の緩和や交通安全性の向上を目指し、バイパス区間の事業を推進中
- 2 大和中央道と京奈和自動車道を結ぶ骨格幹線を形成するとともに、近鉄橿原線踏切道の立体交差化により慢性的な渋滞を解消し、大和郡山市域における円滑な交通流動を確保
- 3 大和中央道と京奈和自動車道を結ぶ骨格幹線の形成により、昭和工業団地等へのアクセス向上による地域活性化
- 4 大和平野中心部を東西に結ぶ骨格幹線の形成による、唐院工業団地等へのアクセス向上を目指し工事を推進中

①中町工区 南側 (R1年度供用箇所)



②北郡山工区

(近鉄立体交差部完成イメージ)



③結崎～三河工区 北側 (大和中央道)



④長楽工区東側 (R1年度供用箇所)



令和2年度予算(百万円)

当初予算

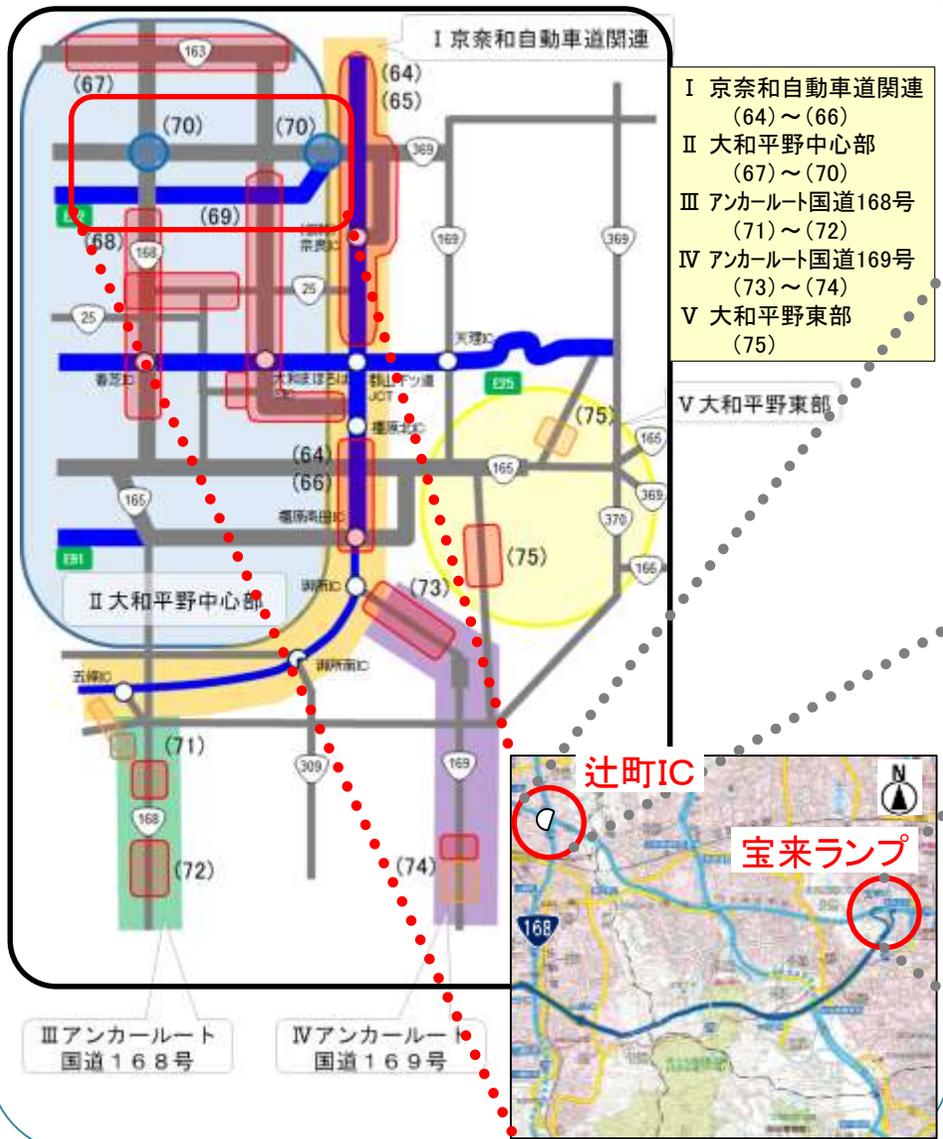
補正予算

1,163

—

(70) 大和平野中心部 阪奈道路結節点

これまでは



もっと良くするために

1 辻町インターチェンジ(イメージ図)(事業着手:H27年度)



2 宝来ランプ(イメージ図)(事業着手:H25年度)



(70) 大和平野中心部 阪奈道路結節点

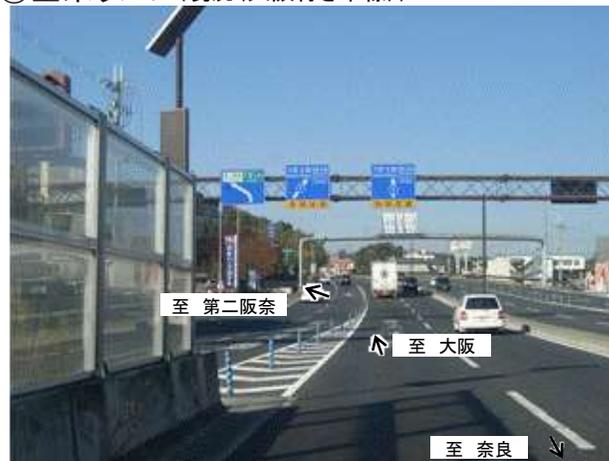
もっと良くするために

- 1 阪奈道路の奈良市方向のアクセスの確保による交通混雑の緩和や地域住民の利便性の向上
- 2 大宮道路高架部から第二阪奈道路への乗り入れの確保によるアクセス性の向上のため、構造改善に向けた都市計画変更の手続きを進めています

②宝来ランプ(イメージ図)



②宝来ランプ(現況(大阪行き車線))



①辻町インターチェンジ(現況)



令和2年度予算(百万円)

当初予算

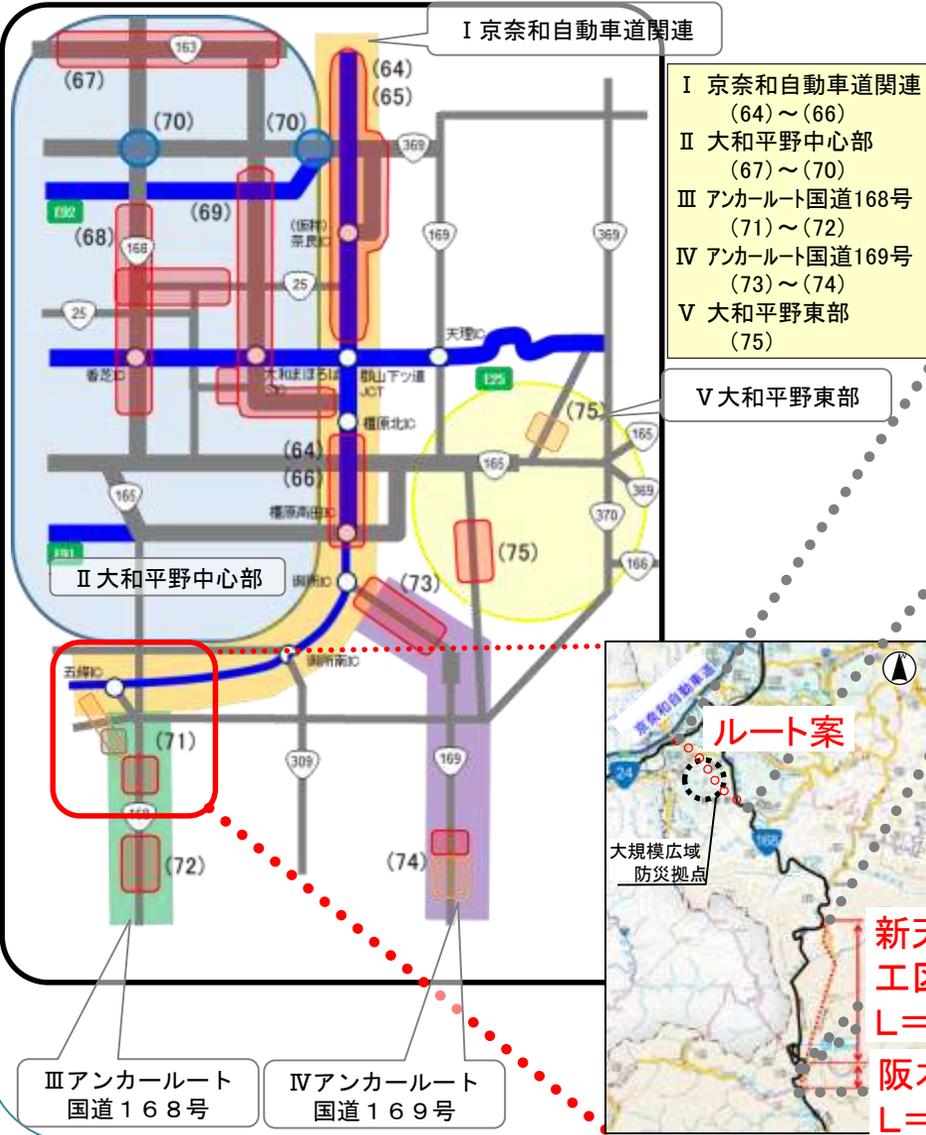
補正予算

53

—

(71) アンカールート国道168号 五條エリア

これまでは



もっと良くするために

1 大規模広域防災拠点アクセス (調査路線: R元年度)



2 国道168号 新天辻工区 (事業着手: H30年度)



3 国道168号 阪本工区 (事業着手: H26年度)



新天辻
工区
L=7.2 km

阪本工区
L=1.4 km

(71) アンカールート国道168号 五條エリア

もっと良くするために

- 1 京奈和自動車道 五條西ICから大規模広域防災拠点へのアクセス性の向上
- 2・3 線形不良箇所と冬期の最大難所の回避による走行性の向上及び安全安心の確保を目指し、阪本工区で、橋梁上部工事を進め、引き続きトンネル工事の着手に向けて取組中

③阪本工区 (橋梁上部工事)



①大規模広域防災拠点アクセス (調査路線)



②新天辻工区 (現道の冬期の状況)



令和2年度予算(百万円)

当初予算

2,140

補正予算

—